

レポ ー ト

佐久市会場

「紙おむつを体験して」

受講番号
氏名

仮に自分が介護をしてもらおうとしたら、一番いやな行為は下の世話だろう。この行為は自分だけに限らず誰でもそうであろうと思う。今回初めて“自分でオムツをつけ、その中に排尿又は排便をする”という体験をした。身体的には健常者である私は、今回“オムツを当てる”という行為は出来ても、オムツの中に排尿をする”という行為は、なんとしても出来ない。尿意をもよおす寸前に当たたにもかかわらず出ない。女性であれば若いときは誰もがパットの世話になった経験があるもの。しかし故意に出すものではないので、“意識して排尿する”という行為が出来ない。当然だとも思うが。しかし、オムツを必要として利用している方が実際にいるのだ。

やっとの思いで排尿するも、気持ちが悪くすぐはずしてしまった。本来であれば、一時間ぐらいはそのままの状態も体験すべきだろうとは思ったものの出来なかった。まして排便などもっと無理。

20年前の実父のオムツ交換をしたときの事を思い出した。癌を宣告され3ヶ月をたった頃からオムツとなった。意識はしっかりしていたが身体状況からオムツとなった。しばらくしてモルヒネを点滴され認知症が出始めた。その間妻である母と娘である自分がオムツ交換と陰部清拭をしたが、意識のしっかりしている時はもちろんのこと、認知症がでてきてからも、オムツ交換の時はいやな顔をし、時には母に「何で俺のそんなところばかり見るのか」と、母を困らせていたことを思い出した。私もつい「臭い。汚いから拭くよ・・・」と平気な顔をして淡々と交換していた。そしてオムツをつけてから3ヶ月後他界した。「今だったらもっと父を傷つけない方法で交換できたのに」。後悔するも後の祭り。

今回の体験をして

- * 利用者の羞恥心には細心の心配りを
- * 利用者の人格を尊重し、言動には注意すること
- * 汚れたオムツは出来るだけ早く新しいものと交換し、気持ちの良い清潔な状態を保つこと
- * 一人の人間として精神的にも身体的にも安らぎを与えられるような介護者でありたい

私たちは過去に一度ぐらいは誰もが下の世話になっている。女性であれば出産のとき、男性でも手術のときなど、恥ずかしい思いをしたことと思う。でもこれは一過性。よくなれば自分で排尿、排便は自分で出来る。風呂に入れず、陰部清拭をしてもらった後の爽快感。痛みで肛門から鎮痛剤を入れてもらい痛みから解放されたときのこと。またその行為をしてもらったときの看護師の言葉、態度。そして今回自分でオムツをした体験等。これらのことを踏まえながら介護にあたれば、良い介護が出来るだろうと思うし、また自分もそういう介護をされたいと思う。